

物語 1

Aさん
[農業協同組合]



就活データ

志望業界：金融
インターンシップ参加：10社
インターンシップ期間
(1番長かったもの)：2日
開始時期：3年生8月
エントリーシート提出：15社
面接社数：10社
内定社数：3社
初内定：4年生5月
就職先内定：4年生5月
就活終了：4年生5月

面接で苦労したが、就活を通して精神的に成長できた。

中高生の時から銀行や株といったお金にまつわることに関心があった。だから、大学は自分が好きな経済や社会について学べるところを志望した。

将来社会人になること、そしてその前に就活があることは低学年から意識していた。1、2年生でなるべく単位を取って、ゆとりを持って就活に臨めるよう準備をした。アルバイトは飲食店と個別指導塾で行い、勤め先の塾の先輩から就活の情報を得た。また、その塾では生徒や保護者、飲食店では常連のお客様など、さまざまな人と接する経験を重ねる中、「人と深く関わる仕事がしたい」と思うようになった。

3年生の3月、早期選考の会社で面接が始まるが、なかなか1次面接を通らず苦しんだ。周りから第一印象が「大人しそうな人」と見られがちなこと、もっと表情を豊かにし、顔きやりアクションを大きなくらいに表現していくことを意識し、面接練習を行った。また、時間内に伝えたいことを伝えられないといった課題もあり、結論からわかりやすく話す練習も、日常的に行った。その結果、徐々に面接で通るようになった。



先輩へのアドバイス

就活で一番大切なことは「自分を偽らないこと」だと思う。「こんな質問したらダメかな?」と思っても、自分がそこで働くことを想像したときに必要なことであれば、思い切って質問することが今後につながる。そして、自分の考えをしっかりと伝えることは、これから内定を出す会社にとってもメリットになると思う。それは、自分のことを十分理解してくれた上で受け止めてくれるからだ。そのことは、そのような会社かどうかを見極めるポイントにもなる。だから、しっかりと自分のライフプランを早めに考えて、伝えられるようにしておくことが大切だ。

物語 5

Eさん
[大手IT企業]



就活データ

志望業界：IT
インターンシップ参加：20社
インターンシップ期間
(1番長かったもの)：1日
開始時期：3年生9月
エントリーシート提出：10社
面接社数：7社
内定社数：2社
初内定：4年生2月
就職先内定：4年生4月
就活終了：4年生4月

最初は第1志望でなかったが、就活する中で変わった。

大学入学時には、将来何がしたいか全く決まっていなかった。でも、社会マネジメント学科で幅広く学び、3年間の中できっと自分がやりたいことが決まると思っていた。そのような中で、IT業界を調べていると、情報のことを学べる上、幅広い業界に携わることができることを知った。IT業界に居ながらにして他の業界もわかることが、次の自分のキャリアを考えるステップにもなり得ると考え、興味を持った。

一方、大学1年生からカフェでアルバイトをしていた。客層が幅広く、クレームを受けることも多かったが、お客様1人ひとりが心地よく過ごしていただくにはどうすればよいかを考えながら仕事をしてきた。すると、お客様から仕事を評価していただけるようになった。また、後輩指導や業務の効率化の提案は、積極的に行うようにしていた。

就活は、3年生の9月からスタートした。1日だけのインターンシップに数多く参加した。また、IT企業に就職しては伝わると思った内容が意外なところで疑問が生じていると気づき、その内容を見直すことに繋がった経験だ。



先輩へのアドバイス

就活の最初の頃は、対面の面接で緊張してしまい、言いたいことを伝えきれなかったり、想定外の質問に戸惑ってしまったことがあった。次のステップにはつながったが、悔いが残っている。事前に、質疑応答の準備を十分にすることが大切だ。

就活は自分を良い方向に変えるきっかけになった。丁寧語や敬語を勉強し、ビジネス上の言葉遣いを身につけたことや、自分の気持ちを上手にコントロールできることは、今後にもつながっていくと思う。

物語 7

Gさん
[市役所]



就活データ

志望業界：地方公務員
インターンシップ参加：2社
インターンシップ期間
(1番長かったもの)：1日
開始時期：3年生4月
エントリーシート提出：5社
面接社数：1社
内定社数：1社
初内定：4年生8月
就職先内定：4年生8月
就活終了：4年生8月

小学生からの思いを持ち続け、公務員試験に専念した。

小学生の頃に体験した東日本大震災から、自分にも何かできないかという思いを持ち続けていた。そして、大学に入学し1年生からボランティア活動に参加した。地域の人たちと一緒に、まちづくりをしたいと思ったからだ。2年生になったとき、大学主催の「公務員対策講座」を受講し、公務員試験など具体的に公務員になるためにどうすればよいかを知ることができた。また、自治体の市役所職員の方と接する中で、自分も地域の住民の方とそのまま一緒に関わっていきたく、改めて思うようになった。具体的には、ボランティアで通っていたのが大船渡市だったので、そこが友好都市だった第1志望の市の仕事に関わりたいと思えるようになった。

そして、2年生の冬になると、周りで就活を始める人が目に付き、少し焦りを感じ始めるようになった。そこで、公務員試験の1次試験に不安を覚えたこともあり、大学とのダブルスクールで公務員試験対策予備校に通うことにした。

3年生になると、大学の公務員向けの講座で数学に関



先輩へのアドバイス

ゼミで学んでいた法律に関しては、公務員試験はもちろん、今後働くうえで重要なことだと思う。他にも、地域に関する授業を好んで受講していたが、それが進路選択にも繋がっていたと思っている。後輩も、大学での授業をうまく活用してほしい。

大学ではいろいろなことに取り組むことができた。それが最終的には結果に繋がったり、自分を認めてもらえたりした。本当にいろいろな人に助けってもらったからできたことだと思う。

物語 2

Bさん
[大手メガネチェーン]



就活データ

志望業界：小売、メーカー、住宅、広告
インターンシップ参加：8社
インターンシップ期間
(1番長かったもの)：2日
開始時期：3年生5月
エントリーシート提出：10社
面接社数：6社
内定社数：1社
初内定：3年生1月
就職先内定：3年生1月
就活終了：4年生7月

キャリアカウンセラーのおかげで、就活が楽しめた。

大学1年から3年にかけて、社会経験ができたり働く人の話を聞いたりできる、さまざまな授業やプロジェクトに参加した。そのような機会を通して、直接人と関わることが楽しかった。また、商品を開発し販売することの楽しさも実感した。

3年生になり早い時期から合同説明会への参加や企業研究を進めたものの、なかなか志望業界を絞れず、就活における軸もよくわからなかった。

3年生の冬、「夢かなセンター」のキャリアカウンセラーに相談に行くことにした。そのとき、対応してくれた方が「〇〇さんのここは強みじゃないかな?」といった、自分では気づかなかった長所について優しくアドバイスをくれ、とても参考になった。その後、何度も同じカウンセラーのところへ通い、就活に向けて対策を行った。

自己分析のために、これまでの自分の人生を振り返ると、音楽に触れる機会が多かったことに気づいた。それも、ピアノ、クラリネット、ドラムと、新しい楽器に「挑戦」を繰り返してきた自分がいた。そして、そのような「挑戦」を



先輩へのアドバイス

就活は、自分にとってとても良い経験だったと思う。自分のことを振り返り、自分をよく知ることができたし、さまざまな人とたくさん話したことが楽しかった。せっかくの貴重な機会なので、これから就活に臨む人は就活そのものを楽しんでほしい。そして、苦戦しているときは1人で抱え込まず、だれかに相談してヒントをもらうのが良いと思う。中でも、キャリアカウンセラーはとくにオススメです。まずは、気軽わずら「一度」夢かなセンター」に行ってみると、優しく接してくれる。そして、自分1人ではなかなかわからない気づきをたくさんもらえる。

物語 6

Fさん
[地方銀行]



就活データ

志望業界：金融、コンサルティング
インターンシップ参加：9社
インターンシップ期間
(1番長かったもの)：1日
開始時期：3年生4月
エントリーシート提出：15社
面接社数：8社
内定社数：1社
初内定：4年生5月
就職先内定：4年生5月
就活終了：4年生5月

いろいろな人のアドバイスから、自分が客観視できた。

2年生のときは、コロナ禍のためできることが制限されていた。しかしその分、就活をがんばろう、できることをがんばろうという気持ちになった。

就活は3年生の4月からスタートできた。とくに、3年生の春から受講していた「就職準備講座」での自己理解のための材料探しが、とても役に立った。

志望を金融業界に決めたいきっかけは、コロナ禍で飲食店などが休業を余儀なくされたニュースを目の当たりにしたときに、お金の大切さを痛感し、人を助けたいと思ったからだ。また、今まで暮らしてきた地元に戻りたいと思ったことや、お客さんと直接コミュニケーションをとる仕事に関わっていきたくという自分の思いが整理できたとき、地元神奈川にある金融系の企業に勤めたいと考えられるようになった。

業界を決めた後、SPI試験の対策をはじめ、ガクチカや自己PRの準備も始めた。書いた文章を就職支援課にもっていき、客観的な視点で見てもらった。それが、とても役に立った。毎回見ていただく方は変わったが、その分



先輩へのアドバイス

第1志望の企業から内定がもらえたので、その点では良い評価をしたい。ただ、準備についてはバタバタして進められなかった点もある。やはり、準備はしっかりしておきたい。

一方、4年生の12月に、就活のときから内定先に言われていた資格試験があった。11月は計画を立てて勉強していた。金融について直接学んでいたわけではないから、難しく感じる面もあったが、自分が学ぶことで「お客さんを助けることができる」、「自分の生活にも役に立つ」と思い、がんばれた。

物語 8

Hさん
[制作プロダクション]



就活データ

志望業界：IT、番組制作
インターンシップ参加：1社
インターンシップ期間
(1番長かったもの)：1日
開始時期：3年生3月
エントリーシート提出：20社
面接社数：10社
内定社数：1社
初内定：4年生6月
就職先内定：4年生6月
就活終了：4年生6月

自分とその会社の相性が良いと感じられるのが大事だ。

大学選びは、家から近い大学で幅広く学べる学科として、社会マネジメント学科に入学した。さまざまなことを学ぶ中で、映像制作に関する授業が非常に面白く、メディア系に関心を持った。とくに1分間のCM制作を行った授業は印象的だった。構成や演出、撮影、編集まですべて自分で行うのは大変だったが、これから入社する会社での仕事のイメージにもつながっている。

社会マネジメント学科は、自分が面白いと思える先生や学びに出会える可能性が高い学科なので、いろいろな幅を広げてさまざまな科目に挑戦してみることが大事だと思った。また、就活では知らない人と話す機会が多く、「社会人デビュー講座 応用編」は、その練習になった。自分は、もともと初めての人と話すのがあまり得意ではなかったが、この授業で慣れたように思う。ガクチカ(大学時代にがんばったこと)を書くための準備も、この講座でできた。

就活は、3年生の6月から合同説明会に何度か足を運んだものの、雰囲気や圧倒されてしまい、そこから先に



先輩へのアドバイス

就活に出遅れた感もあり、なかなか内定が出ず焦った時期もあったが、運もあり非常に自分にマッチした企業から内定をもらえたと思っている。後輩たちに伝えたいことは、4点ある。

①就活期間も就活ばかりにならないこと。息抜きも大切だ。②友人とのコミュニケーション。他の業界や企業の面接の内容なども情報交換できる。③いろいろな業界を見ることが。業界や職種より、社風が大事だと思った。④マイナス思考になりすぎないこと。「受かる、受からない」ではなく「合う、合わない」だと思おう。